



# 在宅医療のこれから — 終末期在宅医療について —

笠間市立病院 石塚恒夫

皆さんは、往診と訪問診療という言葉の違いをご存知でしょうか。往診とは、急な状態の変化に応じて患者さん宅で診察を行うことです。訪問診療とは、定期的に慢性疾患を持った患者さん宅を訪問して診察を行うことで、往診が必要となるような病状の悪化を防ぐことです。笠間市立病院でも訪問診療に積極的に取り組み、その患者数も増加しています。患者さんの多くは、寝たきりの状態であったり、外来受診すると体調を崩してしまう脆弱な状態であったりします。介護保険施設に入ってもおかしくない状態でありながら、家族の頑張りで在宅療養を続けているような患者さんを、さまざまな職種の方々と一緒に支援しています。

近年、医療費抑制を目的に、終末期の在宅医療を国が推進しています。終末期とは「最善の医療を尽くしても、病状が悪化することを食い止められず、死期を迎える」と判断される時期です。8割以上の方が病院で亡くなる現代では、終末期を過ごす場が病院から在宅になるということです。慢性期在宅療養中に徐々に弱って終末期に移行する以外に、がんの進行・再発などでは最初から終末期の場合もあります。麻薬性鎮痛薬に代表される緩

和ケアが普及しつつありますが、急変への対応（頻回の往診）がその導入のハードルを高くしています。

終末期在宅医療が進まない他の要因として、患者さんが終末期と知らされないことがあります。少しでも治る見込みがあると思えば、入院で治療継続したいと思うのは当然です。医者も家族も、あまり酷なことは伝えたくないという気持ちがあります。しかしすべて聴いて方針を決定したい場合には、精神的混乱を抑えるよう配慮した上で情報提供を行うべきです。一度自分の終末期のあり方について、家族と相談してみたいはいかがでしょうか。

確かに在宅では、病院のような迅速な対応はできませんが、慣れ親しんだ場所・家族に囲まれた安心感があります。入院していた患者さんの初回訪問診療時に、別人の様に元気に話す姿をみて驚くことがあります。笠間市の終末期在宅医療はまだ発展途上ですが、訪問看護も24時間対応をしてくれますし、医師会としての取り組みも始まっています。家族の介護力不足も、介護保険で一定程度は補うことが可能です。穏やかな終末期を自宅で過ごしてもらえたという成功体験を、地域の中で積み重ねていきませんか。医療費抑制以上の効果が、そこにはあると思うのです。

## 地上アナログテレビ放送について

2011年（平成23年）7月24日までに、現行のテレビ放送（地上アナログ放送）が終了します。それ以降、アナログテレビをお使いの方は、そのままではテレビ放送（デジタル放送）を見ることができません。BSアナログ放送も2011年7月24日までに終了します。

### ◆地上デジタル放送の視聴方法

- ①地上デジタル放送対応テレビに買い替える。
- ②地上デジタルチューナーを買い足す。
- ③地上デジタル放送対応済のケーブルテレビで視聴する。

※①と②は、UHFアンテナが必要です。

### ◆問合せ先

- 総務省地デジコールセンター  
TEL 03-4334-1111
- BSデジタル放送お問い合わせセンター  
TEL 045-345-4080

## 笠間市立病院に関する 市民アンケート

笠間市では、市民の皆さんが、市立病院について日ごろどのような考えを持っているのか、ご意見・ご提言を広くお伺いしたいと考えています。そのため、笠間市内にお住まいの20歳以上の方の中から3千人を無作為に抽出し、8月にアンケートを実施しますので、ご協力をお願いします。

問合せ先▼市長公室行革推進課  
(内線571)

